

廃校那珂湊二高を活用した多世代交流プロジェクト —話題のグランピングに学生が挑戦—

課外活動

地域交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 3年 阪本 咲

連携先

ひたちなか市役所

顧問教員

伊藤 哲司（人文社会科学部・教授）

参加者

阪本 咲（人文学部人文コミュニケーション学科 3年）

川田 綾香（人文学部人文社会科学部 2年）

川崎 結衣（人文学部人文社会科学部 2年）

植松 祐二（人文学部人文社会科学部 2年）

千葉 綾馬（人文学部人文社会科学部 2年）

鹿野はるか（人文学部人文コミュニケーション学科 2年）

埜 理（人文社会科学部人間文化学科 1年）

若菜 美里（人文社会科学部人間文化学科 1年）

菅原 慎人（工学部機械工学科 1年）

小林 大樹（工学部機械工学科 1年）

角 俊輔（工学部機械工学科 1年）

渡邊 永（工学部マテリアル工学科 1年）

プロジェクトの概要

●プロジェクトの背景と目的

平成30年4月から完全な空き施設となる旧県立那珂湊第二高等学校跡地（以降、湊二高跡地）では、地域の人々が気軽に集まれるようなカフェの運営やイベントの開催といった様々な利活用案が地域住民から寄せられている。学生は、2017年9月に地域住民による湊二高利活用検討会議（フューチャーズミーティング）に初めて参加し、利活用案のひとつとして、地域の外の若者にも湊二高跡地を利用してもらい地域の活性化につなげようと「グランピング」案を提案した。しかし、こういった立案が盛んに行われる一方で、利活用案実施に関して、その担い手がまだまだ不足しているという現状がある。そこで、学生が考案した「グランピング企画」と「地域の人々が気軽に集まれるような共同プロジェクト」を同日に行うことで、利活用担い手不足の課題を解決する一助となるのではないかと考えた。本プロジェクトは、ひたちなか市役所とも連携しながら、学生が利活用案の実施主体となること、そして「地域の人々が気軽に集まれるような共同のプロジェクト」を実施することにより地域住民との多世代での交流を深めることを目的とする。

●活動内容

来年度からの湊二高跡地利活用実施の実現に向け、今年度は前段階として①湊二高跡地の視察と②地域住民との交流イベントの開催

を行った。

この湊二高跡地利活用には、これまで地域の住民が主体となって動いてきていた。学生は今年度から携わることになったため、湊二高はもちろん那珂湊地域にも馴染みのないメンバーが多かった。そこでまず、湊二高跡地へ実際に赴き、そこがどういったところなのか知る必要があると思った。そして、那珂湊地域に暮らし、利活用を実現させようと動く地域住民を知ることこそ湊二高跡地利活用の実施には不可欠なのではないかと考え、イベントを通して交流し仲を深めることを目指した。

① 湊二高跡地の視察

湊二高跡地を利活用するにあたり、そこが実際にはどういった場所であり、どのように利用していいのかを考えるため、ひたちなか市役所の方に協力していただき、視察を行った。視察は二度行い、現在ある建物のうち、使用可能な4つとグラウンド、駐車場を見て回った。

② 地域住民との交流イベントの開催

グランピング同日に開催予定の共同プロジェクト「珈琲を知ろう」に関連させて、このイベントを「おいもカフェ」と称し、実施した。このイベントの目的は、コーヒーと焼き芋を楽しみながら地域住民と学生との仲を深めることにある。焼き芋は、地域住民の中にいらっしゃったさつまいも農家の方に提供していただいた。また、コーヒーは、ひたちなか市に本社を置くサザコーヒーの豆を3種類用意し、さらに3種類の淹れ方で提供した。ほかにも、大人も子供も楽しめるグループ対抗のゲーム大会を行ったり、歌手活動も行っている地域住民の方に楽曲を披露していただいたりした。参加者は、本プロジェクトのメンバーと、連携先のひたちなか市役所の職員、

「珈琲を知ろう」の考案者を含むフューチャーズミーティングに参加する地域住民と高校生、小学生の約60名である。

プロジェクトの成果報告

●成果

活動を通して得られた以下の四点を本プロジェクトの成果とする。

〈湊二高跡地の視察〉

(1) 湊二高跡地について知る

来年度から実際に使用できる教室やスペースの広さ、器具や水道・電気等のライフラインの状態などを確認することができた。特に学生の企画するグランピングは参加者の宿泊を伴うため、それに適した環境づくりをしたり外部施設と連携したりする必要があることが分かった。二度の視察を通して、実施に向けて今後企画の具体的なことを決定する際に不可欠な情報を得ることができた。

〈地域住民との交流イベントの開催〉

(2) 地域住民との多世代交流

「おいもカフェ」には小学生からご年配者まで幅広い年代の地域住民に参加していただくことができた。本プロジェクトのメンバーも企画・運営するだけでなく、活動に参加した。参加者をいくつかの小さなグループに分けたことで、これまで話す機会の無かった人とも世代を超えて密な会話を楽しむことが出来た。さらにグループ単位で様々なゲームに挑戦してもらったことで、連帯感が生まれ、より密接な信頼関係を築くことができた。イベント後に参加者に実施したアンケートでも「年齢を超えて大人も学生も楽しく交流できた」「いろいろな人と話せてよかった」「班ごとのクイズやじゃんけんが夢中になれて楽しかった」などの声をいただいた。

(3) 地域への愛着

名産のさつまいもやサザコーヒーのコーヒー豆を使用したり、クイズの問題に市に関するものを盛り込んだりして、さまざまな点でひたちなか市にこだわったことで、参加者全員が地域に触れる良い機会になった。前述の通り、本プロジェクトのメンバーはひたちなか市や那珂湊地域にほとんど馴染みがなかったが、地域とそこに暮らす人々に接し、活動拠点である那珂湊地域を身近に感じることができるようになった。そしてそれだけでなく、地域住民同士のつながりを強め、地域への愛着をより深めることができた。

(4) 「珈琲を知ろう」の実現への貢献

コーヒー豆の種類や淹れ方にこだわって提供し、実際にその場で反応を見ることができたため、受けの良いコーヒー豆の種類や飲み方の傾向、また、コーヒーをより楽しんでもらうための方策など、「珈琲を知ろう」を実施する際に役立てられるような情報を得ることが出来た。



「おいもカフェ」集合写真



ゲーム企画に挑戦する様子



地域住民による楽曲披露の様子

●メディア

- ・「市報ひたちなか～まちの話題」への掲載
- ・茨城新聞への掲載



茨城新聞 2017年12月27日(水) 付
14面「住民と交流、活用探る」

●今後の展望

今年度は活動拠点である湊二高跡地を知ること、そして地域住民と深いつながりを持つことを目的として活動してきた。そのため、実際には、「湊二高跡地利活用の担い手として利活用案を実施する」という本プロジェクトの最終的な目的を達成するための前段階としての活動にとどまった。この最終目的の達成のために、今後は、現在多くの点で未着手となっている利活用案を実現に向けて進めていきたい。ただし、地域住民との交流は継続して行っていく。

現在フューチャーズミーティングに参加しているのは、学生よりも10歳～20歳、またはそれ以上歳の離れた大人たちである。そのため、若い世代からの視点や学生ならではの発想をフューチャーズミーティングへどんどん発信することを求められている。来年度も本プロジェクトを継続し、アンケートで「地域のために学生が一生懸命頑張ってくれたことに感動した」「今後も頑張って地域を盛り上げてほしい」と言ってくださった地域の方々と、同じ目標を持つ仲間として協力しながら、湊二高跡地の利活用実現、そして成功に向けて尽力していきたい。